



巻頭特集

## 諏訪清陵高校OB 異色対談

フリー・アナウンサー  
**小口繪理子さん**

漫画家  
**山田孝太郎氏**

夕刻、タクシーに乗ると、ラジオから流れるたおやかな声を耳にする。アナウンサーの名は小口繪理子さん。ニッポン放送『高嶋ひでたけの特ダネラジオ夕焼けホットライン』で高嶋さんのパートナーとして2時間を使切る彼女は、実は清陵高校の96回生だ。高嶋氏に可愛がられ、いじられ、頑張つている彼女の声に癒されていた編集者は、今回の対談のおひと方を迷わず、小口さんにお願いした。そして、もうひと方は101回生の山田孝太郎さん。今、注目の漫画家が清陵OBであることを72回生のホームページ「篝火の会」で知り、さっそく声をおかけした。超多忙なアナウンサーと漫画家の対談は、調整2カ月でようやく実現となつた。

**小口** はじめまして。小口です。

**山田** はじめまして。山田です。

最初に、出身など、お聞きし

夕刻、タクシーに乗ると、ラジオから流れるたおやかな声を耳にする。アナウンサーの名は小口繪理子さん。ニッポン放送『高嶋ひでたけの特ダネラジオ夕焼けホットライン』で高嶋さんのパートナーとして2時間を使切る彼女は、実は清陵高校の96回生だ。高嶋氏に可愛がられ、いじられ、頑張つている彼女の声に癒されていた編集者は、今回の対談のおひと方を迷わず、小口さんにお願いした。そして、もうひと方は101回生の山田孝太郎さん。今、注目の漫画家が清陵OBであることを72回生のホームページ「篝火の会」で知り、さっそく声をおかけした。超多忙なアナウンサーと漫画家の対談は、調整2カ月でようやく実現となつた。

**小口** 高校生になつたばかりですもん、そういうのに憧れますよね？ でも、清陵が目と鼻の先じゃ、何も期待できない（笑）。艇庫は離れていたでしょ？ それと、どうせスポーツをやるなら清陵生でも勝てる新入生誘導の際、女子のボート部は各学校にあるわけではないから頑張れば、インターハイも夢じやない！

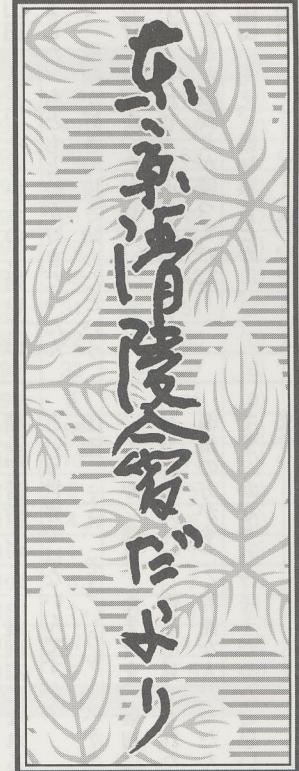
**山田** 手をつなぎたくて？  
**小口** 高校生になつたばかりですもん、そういうのに憧れますよね？ でも、清陵が目と鼻の先じゃ、何も期待できない（笑）。艇庫は離れていたでしょ？ それと、どうせスポーツをやるなら清陵生でも勝てる新入生誘導の際、女子のボート部は各学校にあるわけではないから頑張れば、インターハイも夢じやない！

**山田** 美術部です。

**小口** 山田さんはクラブは？

**山田** 美術部です。

# 女子アナに漫画家。一人の異才も意外！ 真性「清陵つ子」だつた



## 第20号

編集・発行人

**東京清陵会**

(諏訪清陵高等学校同窓会・東京支部)

会長=小川勝嗣

事務局

〒101-0047 千代田区神田 3-24-5

神田シティホテル 気付

TEL&amp;FAX 03-5382-2302

DTP=スタジオパラム  
印刷=中央印刷株式会社

ましょか？

**小口** 私は高島小から上諏訪中学校でした。上諏訪駅から清陵へ行く途中に本酒造さんがありましたでしょ？ その数軒先が実家です。

**山田** 清陵から近いですね？

**小口** そうなんですよ。学校まで5分。高校3年間、この往復で終わってしまうのかな、私には手をつないで歩いたりするような高校生活はないのかなって…。それで端艇部に入つたんです。

**山田** 手をつなぎたくて？

講題① 2008年度会務報告 決算報告 ② 2009年度事業報告 予算案

③ 賛助金の納入状況

④ その他

懇親会=会費 8,000円 (学生2,000円)

※当番幹事=76回生、次期当番77回生、サブ幹事86回生、96回生

●ご面倒ですが出席、欠席いずれの場合でも同封の返信用はがきにご記入の上、9月30日(水)必着にてご返送ください。

## 2009年度 東京清陵会 第43回定期総会案内

日時=2009年10月16日(金) 午後5時~8時30分

総会=午後5時~5時50分 懇親会=午後6時~8時30分

(午後4時30分より受付開始)

場所=アルカディア市ヶ谷(私学会館) 4F「飛鳥」・3F「富士」

東京都千代田区九段北4-2-25 ☎03-3261-9921

市ヶ谷駅 (JR、東京メトロ有楽町線、南北線、都営新宿線  
下車、徒歩2分)



## 「やつてやる！」 みたいなクソ度胸は間違いなく、 清陵からもらいました。

KOTARO YAMADA

◆やまだこうたろう(101回生)

1980年生まれ。1996年入学。1999年東京造形大学視覚伝達デザイン科に入学。はじめての作品が持ち込んだ出版社の担当編集者に認められ、月刊少年ジャンプ2000年7月号『ルシアの吐息』でデビュー。同誌2001年12月号から『ファイアーエムブレム 翼者の剣』連載開始。大学と仕事の掛け持ちだったが、この連載が卒業制作として認められ、無事卒業。現在月刊コミックアライブ(メディアファクトリー)で連載中の『聖剣の刀鍛冶』が10月から千葉テレビほかU局で放映開始予定。

**小口** それで、集英社にも気後れせずに行けたわけですね？

**山田** そうです。「オレがやらにや、誰がやる！」って(笑)。

**小口** 山田さんの作品の女性は、清陵の頃、憧れていた女性がモチーフだつたりするんですか？

**山田** いえ、全然!!

**小口** ひどーい、きっぱりしすぎ。

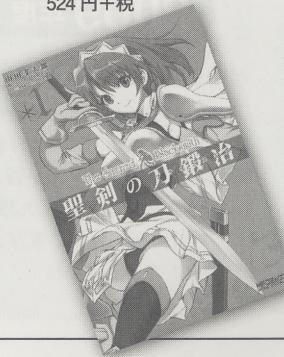
**山田** いえ、その頃は、女性が苦手で興味がなかつたんですよ(笑)。違う高校の友人たちが「清陵の女子は終わつてるな」と言つてましたけど、終わつてるかどうかさえ、わからなかつたですね。

**小口** ほんとうに？(笑)。制服つけてのが魔法をかけるのよ。制服の下はみな同じようなもんなのに…。たしかに清陵の女子はジーンズが多くてスカートもはいていなかつたけれど、でも、女の子だつて費用対効果を考えているのよ。おしゃれして行つてでも仕方がないつて。女生徒だつて男子のこと「終わつてる」って思つてたかもよ(笑)。

**山田** 秘密！秘密です！あのー、「東京清陵会だより」って、歴代、とても格調があるのに、このようないい感じでいいんですか？ とても不安です(大丈夫ですよと76回生たちに促されて)。艇庫つて知つてます？

湖畔に立つプレハブなんですが、水辺にあつて、夕映えの湖面を漕いでいるところはほんとうに素敵なんですよ。しんどい思い出の方が多いけど、青春は謳歌してましたねえ。

『聖剣の刀鍛冶』  
(メディアファクトリー)  
524円+税



**山田** 漫画だけ描いてたわけじゃないんですが、僕の学年は、美術部に入つたのはひとりだつたんで、比較的自由に、好きなものを描いてました。『ドラゴンボール』や『ドラゴンエース』とか流行つてた時代ですから、ファンタジー系の天使とかを描いていましたね。

**小口** 美術部というと、油絵とかそういう印象があるんですが。

**山田** ええ、そういうのも描いていました。もともと絵が好きだつたんで、漫畫が好きで描き始めたというわけではなかつたから。

**小口** それじゃ、小学校のころから金賞とか銀賞とか獲つていた？

**山田** ええ、県知事賞とか…。

**小口** すごい！ 絵心つていうか、もともと才能あつたんですね。

**山田** 美術部に籍を置き、絵を描きながら、将来は漫画家にという夢をおぼろげながらも描いていた山田さんは、大学入学後、最初に仕上げた作品を集英社に持ち込む。これが編集者に認められ、1年後、月刊少年ジャンプでデビューした。

**小口** 漫画の世界つてよくわからぬのですが、アシスタンントをして、それからデビューというよくなつた。山田さんって、見た感じと違つて、かなり大胆なんですね。

**山田** 清陵のおかげだと思ひます(笑)。クソ度胸みたいなものは、間違いなく清陵でもらつたつて感じです。試胆会や清陵祭で徹底的に鍛えられましたから。

**小口** どんな鍛えられ方だつたの？

**山田** 30円もらつて、好きなものを買って來い、みたいなことを言われて、ネギを1本買つてきたら、それ行つた集英社で、作品を見てくれた編集の方がすごく有能な人だつたんです。かなりラッキーだつたと思います。

**小口** 今的作品の原点はそこ？(笑)

**山田** ほんとうに僕、まだ女性に興味がなかつたんですよ(笑)。唐突ですが、小口さんは、初キッスが、

ドラえもんの映画を見ているときだつたとか？

**小口** やだー。AM局のアナウンサーつて自分の私生活を切り売りしているようなところがあつて、プライベートなんてないんです。テリー・伊藤さんにお前の初キッスは？ なんて聞かれて、喋つちやつたら、ドラえもんの主題歌を流して「みんなさう、小口はこの映画を観ながら、チューしたんですよ」つて、暴露され。

**山田** 場所は花松館だつたりして？

**小口** 秘密！秘密です！あのー、「東京清陵会だより」つて、歴代、とても格調があるのに、このようないい感じでいいんですか？ とても不安です(大丈夫ですよと76回生たちに促されて)。艇庫つて知つてます？

湖畔に立つプレハブなんですが、水辺にあつて、夕映えの湖面を漕いでいるところはほんとうに素敵なんですよ。しんどい思い出の方が多いけど、青春は謳歌してましたねえ。

端艇部の朝練は朝6時から7時45分まで。漕いだ後、艇を洗つて8時半の始業に間に合うようにダッシュで清陵へ。1限から爆睡、2



私は、質実剛健で、いつていまます。

#### ◆おぐちえりこ(96回生)

1974年生まれ。1991年入学。高校3年間端艇部に所属。1994日本大学芸術学部に進み、1998年ニッポン放送入社。これまで、「高嶋ひでたけのおはよう! 中年探偵団」「三宅裕司のザ・ベスト30」「テリー伊藤のてけ! ラジオ」などの番組で活躍。2003年病気治療のため退社し、諫訪にて療養。2004年8月から1年間長野県の派遣で中国・河北大学に留学。帰国後、フリーランスとして、ニッポン放送「高嶋ひでたけの特ダネラジオタバコホットライン」(月~金曜 15:30~17:25)に出演中。

限が終わると早弁。そんな日々が続いた。ひとりでも手を抜くとまつすぐ進まないのが「シェルフォア」。仲間の足を引っ張るなという思いと、生来の諫訪的生真面目さから、3年間ボートに傾注。その結果、高3のインターハイでは「女子舵手つきフォア」で全国3位、山形べにばな国体でも同種目3位となる。

山田 ボート強かつたんですね。

小口ええ、みな性格に恵まれていて(笑)。清陵の女子は真面目だから、とにかく練習するんですね。ただ、勝つと遠征費用がかかつちゃうんです。勝つたびに子ども心に、親の財布を心配していました。幸い端艇部のOBのみなさんがカンパンしてくださったんですが、そうなると、

山田 負けた時、野球部の連中が僕の方に来て、土下座して謝ったの覚えてます。熱い思い出です。

小口さんは、ニッポン放送の人気病気治療のため、2003年退社し諫訪に。甲状腺手術後のリハビリのため、携帯ラジオを手に霧ヶ

みんなの期待に応えなくちゃって練習するでしょ、また勝つてしまう(笑)。先生もOBの方々も資金集めが大変だったろうなって思います。

山田 僕らの頃は野球部が強くて3年時には決勝まで進んだんです。

小口覚えています。私も応援に行きましたよ。会社に入っていたんですけど、居ても立ってもいれなくて、東京から新幹線で駆けつけました。惜しかったですよね。

山田 身だつたのでここに決めました。単純なんです。他にも、アナウンサーはみんなミスコンで優勝していると聞いて、私もミスコンにチャレンジしたり。芸つて変わっていて、牛乳の一気飲みとかで決めるんですよ。

山田 どうだつたんですか?

小口 私、高3のときにはアナウンサーになりたいと思っていました。好きなアナウンサーがみな日芸の出身だったので、そこには決めていました。单身だつたのでここに決めました。单純なんですね。他にも、アナウンサーはみんなミスコンで優勝していると聞いて、私もミスコンにチャレンジしたり。芸つて変わっていて、牛乳の一気飲みとかで決めるんですよ。

山田 どうだつたんですか?

小口 アナウンサーに漫画家、私は職業的に異色ですけど、将来性つてことでも異色ですね(笑)。

山田ええ、でも、千萬人といえども吾いかん、です。

この日、山田さんが今連載している「月刊コミックアライブ」の担当編集者・高橋正敏さんも同席。高橋さんは「漫画を描くつて孤独な作業ですが、そんな作家さんの中でも、とにかくひたむきで、作品に対するこだわりはすごいです」と絶賛する。「それもこれも、宮川の攻学会に鍛えられたんですね」と山田さんは笑った。

峰方面にジョギング中、長野県庁が中国への派遣留学生を募集していることをラジオで知る。直接で聞かれそうな質問を書き出し、それを岡谷の中国語学校で翻訳してもらい、徹底的に暗記したことが奏功し、2004年8月から1年間第1回長野県庁派遣留学生として中国・河北大学に留学した。

小口 そうですねえ(笑)。その上、人事部長は長崎芳起さんといって、清陵の70回生の方だったんです。人柄も素晴らしい方でした。若くしてお亡くなりになられて、長崎先輩のお陰で入社できたと今でも思っています。ちなみにニッポン放送は社員が200人強の会社ですが、もう一人清陵生がいます。すごい割合ですよね。さて、女性アナウンサーの寿命は昔は30歳、今は35歳とも言われます。私はもう35ですが…。漫画家はどうなんですか?

山田うーん、寿命はないですね。これが当たらなかつたら次は無いぞという世界です。

小口アナウンサーに漫画家、私はが好きなことを書いて、愛校心なんて考えてはいなかつたけど、3年間でしっかりと植えつけられてたんだなあって気がします。今日は、山田さんにお会いして、しばらくぶりに、清陵の男性に会つたなって気がします。無口で、でも、意志が強くて。これからも、清陵生らしくない繊細な絵で、読者を楽しませてください。

山田 小口さんも、頑張ってください。番組を毎日、聴かせていただきます。

(構成/佐藤一彦・76回生、撮影/上田克郎・84回生)



# 天才バカボンの弟子

●武居俊樹(63回生)

僕は、自分のことを典型的な信州人だと思っていました。

真面目、誠実、常識人。面白味がない、一日一回も笑わない、無駄なことはしない、喜劇よりも悲劇を好み、浮気はしない、飲酒・喫煙・博打はしない、一日二玄米四合ト味噌ト少シノ野菜デガマンスル。

これらのこと�이が信州人の特徴だとすると、見事に僕は信州人だ、と思つていました。

勿論、僕を知つてゐる人は、これらの特徴の一つも持つてゐないのが僕だといいます。

誰も、僕の本質を解つてくれない、と思つていました。

そんな僕が小学館という出版社に

やあ  
どうも  
ですのだ!!



就職しました。そして、少年サンデーに配属になり、ギャグ漫画家・赤塚不二夫の担当編集者になりました。

その瞬間迄僕は、信州人の誇りを失わずに、立派な出版人として生きようと思つていました。

しかし、赤塚と会つた瞬間、その僕の誇りは完全に否定され、踏みにじられ、それと正反対の方を向かされました。しかし、困つたことに、それがなんとも心地よく、そして悪いことに、こつちの方が正しいと気づいてしまつたのです。

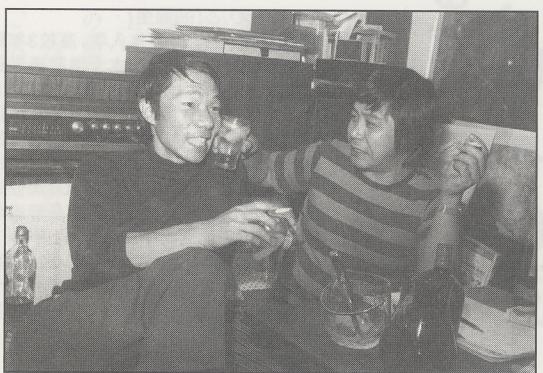
第一に、僕が配属された雑誌は、なんと漫画週刊誌だつたのです。その上、赤塚は、PTAから糾弾されている極悪漫画家だつたのです。焚書坑儒されても仕方がないのです。儒学者は穴埋めされたのです。赤塚は、自分が埋められる穴を前にして、

「オレは、別の穴がいい」  
なんて、ほざいたに違ひないのであります。

僕は、赤塚と会い、あつという間で尊敬てしまい、前非を悔い、改心し、改宗し、転び伴天連になりました。

赤塚は言つていました。  
「オレの漫画読んでも、一週間経つたら、読者から忘れられる。そんな

赤塚不二夫(右)と武居、酒を酌み交わす。



充実して、なんとも幸福な時間だつた。

信州人としての良さや誇りをきれいで捨てた僕は、今、信州に住み、くだらない日々を楽しく過ごしている。

生き方を教わった赤塚は、もういらない。

僕は『赤塚不二夫のことを書いたのだ!!』(文春文庫)という本を書いた。赤塚という作家のくだらなさと馬鹿馬鹿しさが書かれている。暇だったら、読む価値があるのだ!!

今、この本の映画化が進んでいる。多分、くだらない映画になるでしょう。

えつ? って思うでしょ。あんなくだらないギャグ漫画、命がけで描いてたの?

実は、そうなんです。赤塚不二夫というのは、もの凄く繊細で、眞面目な常識人なんです。常識人だから、おかしなことや異常なことが解り、描けたのです。

僕達の間では、「くだらない」といふことは誉め言葉でした。漫画を描く前、どんな話にするか、アイデア会議を開く。僕はメンバーでした。誰かがギャグを言う。「クダラナイ」という言葉が出ると、そのアイデアは採用されていった。

世のタメにならない、くだらないギャグ漫画を、ムキになつて作る。赤塚とは、そういうかかわりを十年以上にわたつてやり続けた。最高に



『赤塚不二夫のことを書いたのだ!!』  
(文春文庫) 武居俊樹著 619円+税

## ●たけいとしき

岡谷市出身。早稲田大学文学部卒業後小学館入社。2002年退社。同年『赤塚不二夫のことを書いたのだ!!』(文藝春秋)を出版。2007年に刊行された同タイトルの文庫の巻末解説には、漫画原作者・やまさき十三氏が、武居さんの諷刺的思考、権力に屈しない清陵的(?)生き方に賛辞を送っている。

## 医療法人社団 小池医院

理事長 医院長

小池清教(73回生)

〒103-0022

東京都中央区日本橋室町1-12-9

☎03-3271-0813

## 耳鼻咽喉科 小口醫院

小口多聞(40回生)

小口直彦(76回生)

〒394-0022

長野県岡谷市銀座2-2-24

☎0266-22-3068

# おもしろきこともなき世を

●白川浩司（64回生）

ごぞんじ高杉晋作の辞世とされて  
いる句である。この後「おもしろく」  
と書いたところで力尽きてバタリと  
筆を落とし、愛人の望東尼が「すみ  
なすものは、心なりけり」と続けた  
ことになっている。

私は昭和四十年、大学卒業とともに  
にわたって主として雑誌・書籍の編  
集に携わってきた。その間、昭和の  
終りから平成の初めにかけて『諸君』  
『文藝春秋』の編集長を務め、「ベル  
リンの壁」崩壊と冷戦終結、国内で  
はいわゆる「五五年体制」の終焉と  
バブル崩壊など、いわば一世紀に一  
度の大変化を目撃してきた。

十分に面白い編集者生活だったと思  
うが、今の気分は晋作の句に似てい  
ないこともない。

司馬遼太郎さんは知り合つて間も  
ないころ、私の住まいが多摩の歳三  
の生家近くだったからだろう、顔を見  
ると土方歳三の話ばかりされた。司  
馬さんに「燃えよ剣」という、歳三をモ  
デルにした名作がある。

だが、あまりに歳三の話が多いから  
ら、さすがに私もおかしいと思いつ  
めた。実は土方という人物はかなり  
の乱暴者で、地元の評判は必ずしも

「君は九州男児か」  
「いいえ、違います」  
「じゃあ、水戸つぼか」  
「いいえ」

「信州です」

「じやあ、どこなんだ」

「信州です」

と言つた途端、顔をしかめて、

「僕は、信州人は大っ嫌いなんだ」（絶  
句）

私は『諸君』編集長のころ、自分  
で言うのもナンだが言論界の乱暴者  
と言っていた。業界の下らない約  
束ごとをことごとく無視し、「王様は  
ハダカだ」といい続けたからである。  
とすれば「お前は歳三に似た乱暴者」  
といわれているに等しい。

だが司馬さんは、坂本竜馬とともに  
に歳三のことも好きだった、とあち  
こちで書いておられる。だから私も、  
決して嫌われたわけではないと勝手  
に思うことにしている。

この頃は全国の大学で、学園紛争  
真っ盛りだった。だがこの年あたり  
を境に、急速に下火になっていく。  
私見だが、三島事件が運動家たちに  
根源的な問いを突きつけ、心の奥深  
くに衝撃を与えたからではないか、  
と思う。その後、私は折にふれ三島  
さんの言葉を読み返し、その預言的  
意味を考えることになった。

平成七年の清陵百周年記念講演会  
では、江藤淳氏を講師としてお呼び  
するお手伝いをした。講演会が行わ  
れたのは十一月四日。ご夫妻とも諏  
訪は初めてとかで、前日には入諏し  
ていたとき、諏訪のあちこちを私が  
案内することになった。

実は私には、江藤さんにぜひ見て  
ほしい場所があった。諏訪大社上社  
の、前宮周辺の佇まいである。下社の、  
都会風というか、洗練された雰囲気  
とき、尋ねられたことがある。

右より江藤慶子夫人、江藤淳氏、白川。平成  
七年十一月、蓼科にて。



そして前宮、本宮ともさつちりと、  
二礼二拍手一礼の拝礼をされた。江  
藤家は仏教ではなく神道だが、それ  
を差し引いても肅然たる拝礼の仕方  
だった。

話はこれでおしまいである。「ベル  
リンの壁」が壊れたとき、あるいは  
バブルが崩壊したとき、私は、この  
世には人智を超えた何ものかがある  
ような思いにとらわれたが、今もそ  
れは変わっていない。人間は何でも  
出来るわけではない、謙虚でなけれ  
ば、と思うのである。



平成7年11月、前宮にて、  
江藤氏（右）と。

●しらかわひろし  
茅野市出身。東京大学文学部卒業  
後、文藝春秋に入社。  
『諸君』『文藝春秋』編集長などを歴  
任後、常務取締役を経て、2007年退  
任。

特別寄稿

# 宇宙に挑む 「自反而縮雖千萬人吾往矣」

◆成尾芳博(74回生)

人類初の月面着陸から40年。ガリレオが天空に望遠鏡を向けてから400年。46年ぶりの皆既日食と

いつた具合に、なにやら今年はとて

も宇宙づいている。そしてこの原稿

を書いている今日(8月1日)、日本人宇宙飛行士の若田さんが4ヶ月半という長期の宇宙滞在を終え、地球に戻ってきた。建設を始めて10余年、糸余曲折を経て、今ようやく国際宇宙ステーションが完成に近づいている。

人類が初めて地球以外の天体に降り立った日、私は清陵の二年生であつた。1969年7月21日、朝から陽が照りつけ、とても暑い日だったことを覚えている。朝のニュースで宇宙飛行士のその日の予定を確認した私は、登校はしたもののその時

間が近づくと居てもたつても居られなくなり、教室を抜け出して清陵内

で唯一(?) TVが置かれていた場所に向かつた。今では考えられない

かも知れないが、全ては自己の責任において行動するという校風のお陰で、私は誰にも邪魔されることな

く、歴史的瞬間を見届けることができた。アポロ宇宙船のニール・アームストロング船長が月面に降り立つとき、私は、TVを通じて世界が

一つになつたような不思議な感覚に包まれていた。あれから40年。私は今、宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所本部に勤務し、再使用型ロケットの研究に没頭する毎日を送っている。あの時と同じ感動を今度は情報を発信する側として世界中の人と共にしたい。そう願いながら。

私がひたすら考えていた。その答えが、不老不死の薬を作る医者になるか、はたまた宇宙ロケットを作る科学者になることであつた。きっと宇宙に行けば答えが見つかる、そう思つていたのである。ロケットサイエンティストになりたいという思いはその後も育まれ、小学校や中学校の卒業文集にも綴つている。

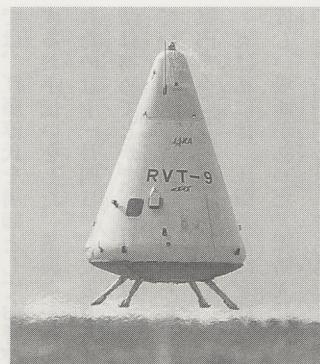
私は、宇宙太陽発電衛星の建設や一般大衆の宇宙飛行を念頭においた超低コスト宇宙輸送系の研究でいる。人類が月に降り立つた1960年代後半から1970年代前半にかけて人々の宇宙への夢は大きく広がつた。宇宙工場、宇宙観光、宇宙太陽発電衛星、スペースコロニー等々。

しかしその後、商業化されたのは通

信と放送の衛星システムに代表される言わば情報産業の分野だけ。原因はロケットの高い打ち上げ費用であり、高い輸送コストを払つても採算の合うのは情報産業の分野だけといわれている。このような状況を打破するため、1990年代から各国でコストを桁違いに下げるなどを目標とした再使用型宇宙輸送機の研究が行われた。ところが、世界の宇宙開発をリードしてきたアメリカは、

2000年を目処に進めていた技術

飛行試験中の再使用型ロケット実験機(着陸直前)



持ちに変わることができたのは、清陵一年の時に手にした火の鳥「未來編」であった。そこには宇宙生命体といつた言葉と共に、「死ぬないことの苦しさ」が描かれていた。死を恐れるのとは全く逆の苦しさがあることを知り、そこから見出した私の答えは「無限の時を過ごせる肉体はないのだから、やはりその時その時を精一杯生きて、悔いの無いように生きよう」であった。この思いが黒澤明監督の映画と融合し、現在に至っている。

ここ20年近く私が取り組んでいるのは、宇宙太陽発電衛星の建設や一般大衆の宇宙飛行を念頭においた超低コスト宇宙輸送系の研究である。人類が月に降り立つた1960年代後半から1970年代前半にかけて人々の宇宙への夢は大きく広がつた。宇宙工場、宇宙観光、宇宙太陽発電衛星、スペースコロニー等々。しかしその後、商業化されたのは通信と放送の衛星システムに代表される言わば情報産業の分野だけ。原因はロケットの高い打ち上げ費用であり、高い輸送コストを払つても採算の合うのは情報産業の分野だけといわれている。このような状況を打破するため、1990年代から各国でコストを桁違いに下げるなどを目標とした再使用型宇宙輸送機の研究が行われた。ところが、世界の宇宙開発をリードしてきたアメリカは、

開発した再使用型ロケット実験機と共に(左側が筆者)



●なるおよひひろ(74回生)

1977年3月日本大学大学院理工学研究科機械工学科専攻修士課程修了後、東京大学宇宙航空研究所に入所。その後二度の改組を経て、現在宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所本部宇宙航行システム研究室助教。AIAA(アメリカ航空宇宙学会)、日本航空宇宙学会、日本ロケット協会、太陽発電衛星研究会会員。液体水素/液体酸素ロケットエンジン、空気吸い込み式エンジン、再使用型宇宙輸送システム、太陽発電衛星システムの開発研究に従事。2008年7月にAIAA Best Paper Awardを受賞。

悔いのない生活を送ろう、という氣

も清陵時代、これから的人生において心に留め置こうと決めた言葉である。後者は清陵生のモットー、孟子の言葉であるから説明はいらぬであろう。これに対し前者は、手塚治虫さんの「火の鳥」、黒澤明監督の「わが青春に悔いなし」、「生きる」といった作品の影響を色濃く受けている。小学校以来、死の恐怖から抜け出せないでいた私が、だから顧みて

## 浦安ブライトンホテル

取締役常務執行役員・総支配人

大島則夫(75回生)

〒279-0011

千葉県浦安市美浜1-9

☎047-355-7777

## 有限会社 シナリーセピア

代表取締役

稻葉利恵子(76回生)  
(旧姓・小川)

〒171-0022

東京都豊島区南池袋1-13-24 野出ビル2F

☎03-6907-8091

化や推進に係る新規技術の実証に困難を生じたとして、次世代シャトルを建造するのは時期尚早との判断を下し、早々と開発を断念してしまった。米国の決定は多くの国に影響を与えた、その後の研究は世界的に見ても基礎研究レベルにとどまっている。しかし、アメリカが諦めたからといって再使用型宇宙輸送機の研究を止めてしまつて良いはずではなく、地球環境が加速度的に悪化していることからしても、地球周回軌道へ革新的な輸送方法の開発は急務といえよう。ちなみに米国の次世代シャトル計画は極低温複合材タンクの開発でつまずいたが、我々のグループは小規模ながらその製造法に一定の目処をつけている。また液体水素を燃料とするロケット実験機（RVT）を試作し、一日一回の繰り返し飛行にも成功した。このロケット実験機は、まだ地上近傍の飛行実験にとどまっているが、継続こそ力である。

米ソが国家の威信をかけて宇宙開發を進めた時代は終わり、世界が夢を失いつつある。ここは日本が頑張つて世界をリードすべき時、そのように考へている。まさに「自反而縮雖千萬人吾往矣」である。

多感な時期を清陵で過ごし、そこでの様々な出来事が私の今の生き様を決定した。人に勧められるような生き方ではないが、将来のロケットはこうあるべきだという信念に従つて、これからも再使用ロケットの実現に挑み続けたいと思っている。



有賀幸作 海軍中将。1897~1945年。享年49歳。(写真提供/月刊「丸」)

特別寄稿

## 男子の本懐これに勝るものはない 清陵（諏訪中学）生たちの大和

◆井上孝太郎（76回生）

昭和二〇年四月七日一四時二三分、当時世界最大の戦艦「大和」が三〇六三名の乗組員と共に、その巨体を坊の岬（薩摩半島）の南西方約一二〇海里（北緯三〇度四三分〇七秒、東經一二八度〇四分二十五秒）の海中に没した瞬間、日本海軍の戦闘能力は事実上壊滅した。

天一号作戦または菊水作戦と呼ばれるこの作戦は、同年四月五日午後、伊藤整一第二艦隊司令長官に下された「大和を旗艦とする」第二艦隊を率いて沖縄に突入せよ」という生還を期さない海上特攻であった。

この時「大和」の五代目、つまり最後の艦長は有賀幸作（あるが・こうさく）大佐（殉死後中将に特進）であった。また「大和」（16回生）であった。また「大和」を護るために、巡洋艦「矢矧」以下9隻の駆逐艦で編成された、第二水雷

戦隊の指揮官は古村啓蔵少将（15回生）であった。共に現辰野町平出に生まれ、諏訪中学（現・清陵）から海軍兵学校へ進んだ。また二人とも水雷の道に進み、古村少将は「大和」の姉妹艦、戦艦「武藏」の三代目艦長も歴任している。

奇しくも当時の世界最大（「大和」と「武藏」は同規模）の戦艦の艦長を、山国諏訪中出身者が務めていたとは不思議な気がする。

さて、有賀大佐が昭和一九年一月に「大和」の艦長となつた時は、

よほど嬉しかつたらしく長男への手紙に、タイトルの言葉「男子の本懐」これに勝るものなし」と書いている。また「死に場所を得た」とも書いている。有賀艦長には清陵（諏訪中学）生らしい豪快なエピソードが多いが、ここでは紙面の関係上省かせて頂く。

そして「大和」の最後は米軍の三八六機の攻撃機の最初の空襲により、僅か二時間弱でこの世界最大の戦艦は爆沈した。

さて、大和と共に海中に没した有賀艦長の最期だが、「僕たちの好きな戦艦大和」（別冊宝島編集部編）から引用させて頂く。

（有賀の最期だが、これにはいくつ

かの説が流布されている。書籍や映像などでもっとも伝えられることが多いのが「羅針儀に身体をロープで縛りつけ沈んでいった」というもの。「俺は水泳が達者だから」と言つて、

部下にロープで身体を縛らせたとともに

言われている。また「大和」が波間に没した後、海上に浮かぶ有賀の姿を見た、あるいは沈みゆく艦橋で手

を振つていたという証言もある。さ

らに部下から渡されたビスケットを

食べながら沈んでいたなど、奇異

と思えるほど多くの説に満ちてい

る）

いずれにしても清陵生らしい。

一方、古村少将は生還し、戦後「大和」をはじめとする第二艦隊の戦死者の遺族を長い間、訪問をしていたそうである。

それにしても諏訪中学出身の海軍提督は5人もいる（筆者調べ）。山国諏訪の清陵（諏訪中学）生の海への大いなる憧れだろうか。

最後になるが、有賀艦長は妻に残した遺書に「遇すること薄かりしかからわらず、仕うことの申分なかりしを深謝す」と書かれていた。「戦争と清陵生」という歴史の重さを戦後の「清陵生」として思う。

参考資料・「僕たちの好きな戦艦大和」（別冊宝島編集部・編）

(財)全日本剣道連盟 社会体育指導員  
(財)日本体育協会 公認スポーツ指導者

井上 孝太郎(76回生)

〒103-0023

東京都中央区日本橋本町1-1-1 アリコジャパン  
☎03-5203-5751

E-mail:AG.inoue.koutaro@aig.co.jp  
携帯 080-3210-6568

## 神田シティホテル

代表取締役  
金子充宏(65回生)

〒101-0047  
東京都千代田区内神田3-24-5  
☎03-5296-2200

# 「私の中のファンダメンタルズ」

◆小池康博（76回生 慶應義塾大学理工学部教授）

六月二六日、諏訪市の紅やホテルで、21年度定例同窓会総会が開かれ、記念講演に光ファイバー分野で日本人科学者としてはノーベル賞に最も近いひとりとメディアでも評価されている76回生の小池康博・慶應大学教授（物理情報工学科）が、自身の研究とそれを支え続けた清陵の精神について振り返りました。

今日は私の研究のことを、とのお説いでしたが、先輩の皆様を前に、本当に自分がその都度感じてきたこと、特に清陵から学んだことをお話ししたいと思います。

私の実家は本町、角間川（かくまがわ）のすぐ端で、清陵まで歩いて

五分かからない距離。当時は自転車で三分ほどかけて通っていました。実家のお墓が清陵の上にあるものですから、毎年、清陵の前を通っていますが、中に入ったのは一年前の講演のときです。卒業以来、三十数年ぶりです。近代的な建物で、昔の油の木材の廊下の懐かしい匂いもしなければ、通された綺麗な体育館に整然と並んでいる生徒たちも何か私たちが高校だったころに比べると、現代の高校生たちという印象でした。講演後、何人かの生徒さんたちが質問をしたいということでお別の教室に通されました。キラキラした目で質問をしてくる。そのときにつつと四十年前の将来を夢見ていた自分の姿を見るような思いがし、何か琴線に触れるものがあり一生懸命質問に答えたことを覚えてます。

私が科学に憧れを抱いたきっかけは、手塚治虫の「鉄腕アトム」。そして研究を始めたきっかけは諏訪清陵に遡ります。私に一番影響を与えたのは、私の叔父、岡村治です。

「赤鬼（あか・おに）」と言えばご存知の方が多いと思います。赤ら顔で人を感動させるものを持っていた叔

父だったと思います。その叔父の影響で自分が化学に向けて大きな第一歩を踏み出しました。大学に入つてからもう一人の私の恩師に出会います。私の指導教授になる大塚保治先生です。後に学部長を務めた方です。その方が「光」の研究をされています。私は、大塚先生に深い感銘を受け、これが自分の将来の研究分野へつながると直感したのです。それが、今日の「フォトニクス・ポリマー」に至っています。通信、放送、医療などへの応用とこれから暮らしに欠かせない「コミュニケーションの基本的な環境」という風にとらえていただいても宜しいのではと思いま

す。けれども、私は、玉の「大きさ」のこと何も言つてない。ビー玉の更に千分の一というと、ミクロ、マイクロになります。そこまでになるともう屈折は起きず散乱になる。

例えば、牛乳はなぜ白いか？ 牛乳が三百六十度で反射（散乱）しているから白い。ところが牛乳の粒をもつともつと細かくすると同じ成分で、光がまつすぐそのまま通る。つまり「透明な牛乳」が作れます。理論的には水のようなく全く透明になります。これは光の本質なのです。もっと小さくなると光の吸収とかそのほかの現象が起きます。

この流れに気がついたのは最近です。本当に4、5年前でしょか。光の屈折率を使った最も高速のプラズマ光ファイバーは、慶應大学領域をやっているのではないか、境

界領域は両方に専門家がいて、こちらがこうだと言つて、今度はこちらと衝突すると、次はまた別の専門家がいて、がーんと言われるつていう何かその狭間という意識があります。今は「化学が右の耳」で、「光が左」だとしたら、フォトニクス・ポリマーというのは実は新しい新天地で、それは顔かもしれない。上が見ると、境界領域というと面積を感じない大きな新しい新天地があるた。

光は粒子という「ビー玉」ですかね、屈折するとか反射するという答えが多いと思います。しかし、その答えだと一〇〇点満点で二五点です。確かに屈折とか反射はおきますが、今日の「フォトニクス・ポリマー」に至っています。通信、放送、医療などへの応用とこれから暮らしに欠かせない「コミュニケーションの基本的な環境」という風にとらえていただいても宜しいのではと思いま

す。今から言えば、「光の吸收・分散・散乱・屈折率・反射」というこの表があるのだったら、「散乱」を飛び越えて、「分極」と、その「屈折」を関係づけたら、透明性を維持しながら、できることが、この分野に関係している。

一番最初にプラスチック光ファイバーを作ったのは、アメリカのデュポンです。プラスチック光ファイバーを開発したデュポンは光の波形が広がりすぎて高速通信には使えないと判断、その技術を三菱レイヨンに売ってしまった。

そこで、その中に屈折率分布をつけるということを私たちは提案しました。一番最初のプロットが

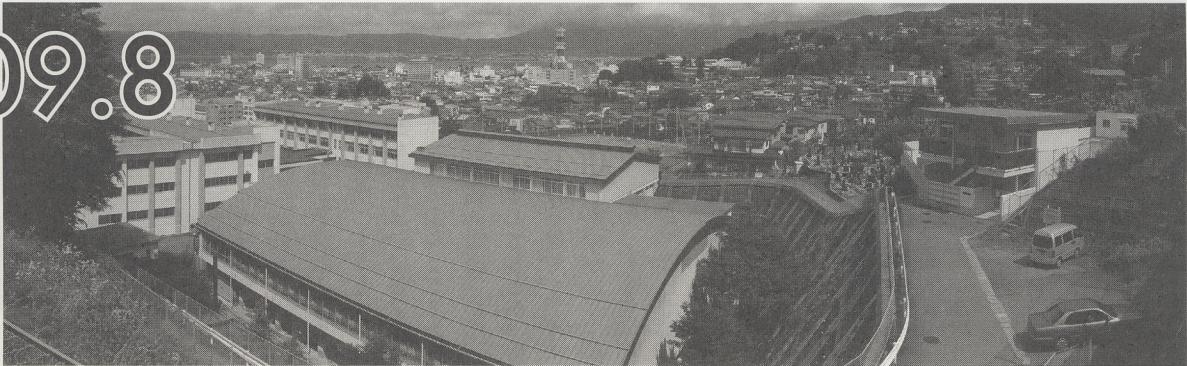


挫折期間中も自ら計算したAINSHUTAINの理論値を信じ続けたと語る小池康博教授。



2009.8

テニスコートから望む現在の諏訪清陵高校の全景。右手の建物がプールの更衣室棟。大体育館の向こには小体育館(講堂)。



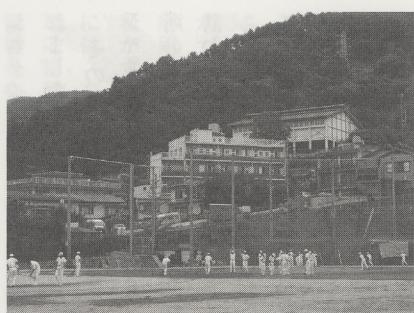
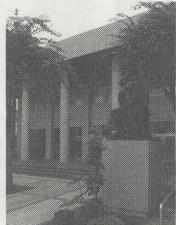
威厳の漂う正門。ここから入るのは恐れ多く、我々は学生玄関(写真右)から入る。黎明の像が懐かしい。



## 76回生が36年ぶりに母校・諏訪清陵高校を訪ねた

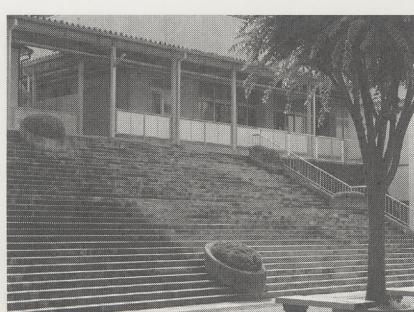
# 清陵は今……

「東京清陵会だより」の編集に当たり、今の清陵を知らないのはまずい、ということになった。多くのOBも知らないだろうということで、76回生が今の清陵に足を運んでみると……



昔、正門だった場所にはバックネットが。坂の上の諏訪中学校(移転)の校舎と体育館は昔のまま。

1973年春に卒業して以来、はじめて清陵に足を運んだ。卒業の前年5月、学友会館が燃えた。4時間の授業中、校舎のすべてのサイレンがけたましく鳴った。廊下を先生が「火事だ」と叫んで駆け抜けた。グランドの向こうから煙が上がっていた。学友会館以外に考えられない。教室を出て、坂を駆け下りると、剣道部の後輩が防具を抱えて会館から飛び出してきた。俺も！ と飛び込もうとしたら、消防団員に「バカッ小僧！ 死にてえだか！」



お弁当を食べたり、部活の練習をしたり、カフェ＆社交場の役割をするらしい「コモンスペース」。

我々がファイヤーストームをした校庭の上に建ち、校舎のあつた場所が、広大なグランドになっていた。バレーボールコートのあつた丘は深くえぐられ、大小ふたつの体育館が並び、裏山と呼んでいた山は、さらに上まで切り拓かれ、そこには青々と水を湛えたプールとテニスコートがあつた。春はバレー、夏と秋はマラソン、冬はバスケット(室内)かサッカー(グランド)。3年間それ



「コモンスペース」で女子バスケットボール部が練習中。女子だけのバスケ部と聞いて、隔世の感！

4というから、男子生徒の2割弱が野球部だ(我々の時代にはなかつた)。守備の練習をしている。1塁上にも、2塁上にも、3塁上にも10人以上の野手が順番を待つて立っている。現在、野球部員は57人とか。清陵の定員は1学年240名。男女比が6対4というから、男子生徒の2割弱が野球部に所属することになる。昔、内投球練習所も並んでいた。立派な校舎に、気後れしてしまい、正面玄関を辞し、生徒玄関から入れていた。油の匂いがしみついた木の床は、もちろんどこにもない。すれ違う後輩たちは、みな「こんにちは」と微笑んでくれる。拗ねていない！ 茶色に染まったボロボロの運動着に、「造反」とか、「千萬人」とか書いて走り回るよう輩も、今は

国道20号線を上り、清陵高校前の信号を左折する。この突き当りが清陵だ。我々より1カ月前に清陵を訪れた76回生の友だちから「角間川沿いを上がって今井商店の横から諏訪中の坂を行っても清陵には入れない。新しい正門はグランドのほうだ。学友会館のほうから上つていかなればダメ」という情報を仕入れていたので、迷わずたどり着けた。坂を上ると右手に駐輪場があった。

1973年春に卒業して以来、はじめて清陵に足を運んだ。卒業の前年5月、学友会館が燃えた。4時間の授業中、校舎のすべてのサイレンがけたましく鳴った。廊下を先生が「火事だ」と叫んで駆け抜けた。グランドの向こうから煙が上がっていた。学友会館以外に考えられない。教室を出て、坂を駆け下りると、剣道部の後輩が防具を抱えて会館から飛び出してきた。俺も！ と飛び込もうとしたら、消防団員に「バカッ小僧！ 死にてえだか！」

と怒鳴られ制された。後ろを走る警官のトランシーバーから「タバコの不始末」という声が聞こえた。「バカッ小僧」の怒声が、いつまでも耳から離れなかった。

その会館が駐輪場になっていた。

### 豪華な校舎と充実した施設

高校生の頃、「親父たちの頃は、このグランドに校舎が建つてて、あつちがグランドだったんだってさ」という話を同級生から聞いたことがある。校舎の配置を見て、旧制中学に戻ったということか、と思った。

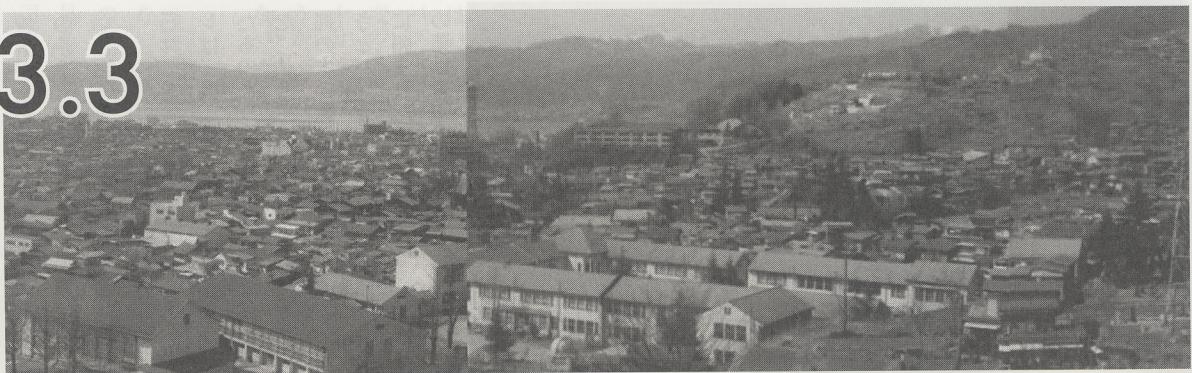
平成元年に落成した新校舎は、我々がファイヤーストームをした校庭の上に建ち、校舎のあつた場所が、広大なグランドになっていた。バレーボールコートのあつた丘は深くえぐられ、大小ふたつの体育館が並び、裏山と呼んでいた山は、さらに上まで切り拓かれ、そこには青々と水を湛えたプールとテニスコートがあつた。春はバレー、夏と秋はマラソン、冬はバスケット(室内)かサッカー(グランド)。3年間それ

だけを繰り返していた我々には、この充実ぶりが、羨ましいのかどうか、悲しいかな判断できなかつた。

校舎を抜けて、まずグランドに出た。手前にサッカー部、むこうに野球部が練習をしていた。あれが野

# 1973.3

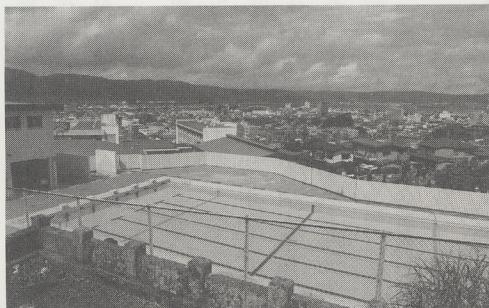
1973年3月、校舎の裏山（現在のテニスコートあたり）から撮った旧校舎。手前のバレーコートは切り崩されて体育館になっている。



その学友会館のあとが、2階建ての立派な駐輪場になっていた。



旧学友会館。1972年5月、2階部室から出火。ボヤで済んだが使用禁止となった。(1974年に取り壊し)。



裏山を切り拓いて作られたプール。すばらしい眺望に、立ち去りがたくなってしまった。



人生の3分の2を終え、胸の張れ

(構成／佐藤一彦 写真／関屋孝行、  
羽毛田弘志、佐藤一彦・76回生)

孟子の教えは、今も清陵生の支えとなっている。「自反会」とよばれる自主講座もあるという。

いなし。アディダス、ナイキ、ミズノ、みなスマートでかっこいい。

校舎の中心にはローマのスペイン階段を思わせる「コモンスペース」と呼ばれる洒落た中庭があった。「東京清陵会だより」の取材で会った後輩たちがみな、ここを思い出の場所にあげていた。夏休みでなければ、この階段で、恋を語りあうカップルも目撃できたのかもしれない。

### 自慢の母校は、よそ行き顔で

平成14年から諒訪清陵高校は文科省のSSH（スーパーサイエンスハイスクール）に指定されている。将

来の科学技術を担う優秀な人材を育成することを目的に、全国で106校が指定されているが、長野県では清陵のほか1校だけ。理科と数学に重点を置いたカリキュラムで、信州大学、諒訪東京理科大学への授業参加、エプソンへの研修、トップクラスの研究者や技術者を招いた「サイエンスフォーラム」などが盛り込まれている。

すごいなあ。卒業まで外には目も向けず、「お山の大将」、「井の中の蛙」だったデキの悪い先輩は身の置き所がなくなってしまう。

あまりにも変わってしまった母校は、青春を手繕るには、思い出の糸口がどこにも見つからない。自慢の母校が、どこかよそ行き顔で、さびしい。期待していたような懐かしさが込み上げてこない。

そんな気持ちのまま、グランドを横切っているとき、ようやく思い出がよみがえった。中庭にあった「大

岩」、そして「自反碑」。  
「大岩、小さくなつてねえか？俺たちがでかくなつたつてこと？」  
「いや、台座にするために、土の中に埋まつてんだ」。

### 自反而縮雖千萬人吾往矣

あの頃、校則もない学校に迷い込み、「千萬人」と「自分」を比べる物差しもない少年が、「自治」「自由」という言葉を操りながらも、この意味をどこまでわかっていたのだろうか？

半生だったかと問われると即答には窮してしまう。しかし、今、この碑に正対していられるのは、孟子の、いや清陵の教えを、36年間、都度自問し、確かめながら生きてきたからではないか？

要領よく生きてこれなかつたのは、これのせいだ！36年ぶりに清陵を訪れ、不器用な自身の生きざまの原点が、ここにあつたことに、あらためて気づいた。

は、清陵を訪れ、不器用な自身の生きざまの原点が、ここにあつたことに、あらためて気づいた。



帰りに寄った唐沢山。清陵同様、本堂はきれいでいた。青春の苦い思い出がこみ上げてきた。



同窓生交歓

# 清陵／伝統／の変遷

校舎が変わり、時代が移り、清陵の伝統や校風は、どのように変わっているのか？ 年代を超えた東京在住のOB達が集まり、わが清陵の変遷を語つていただきました。まずは下諏訪黎明会のOBたちから。

石井 下諏訪の街に生まれ育ったオ

レハ、梶(かじ)の葉をデザインしたあのキリッとした徽章に憧れていました。万葉集にもうたわれている神木、梶の木。諏訪大社の神紋という神聖さとパンカラという自由闊達さ。山に囲まれた盆地のなかにあって、梶の葉は未知の世界への扉だった。

藤巻 僕は先輩のような口

マンツックな思いはありませんでした。成績が良ければ行く学校。そんな現実的な選択でした。

藤森 僕もそんな世代かも知れない。でも、決定的に清陵を感じたのは、合格直後の「民(たみ)」です。

新聞の合格者発表を見て、先輩方が

中村 私たちは、合格祝いの民は経験していませんけれど、東京でも体から抜けていません。新宿でも、下北沢でも、池袋でも。清陵の同窓会があると、周りの視線も気にせず、あのノリで都会のコンクリートをたたくように踏みしめました。

高木 僕も清陵入学を実感したのは、試胆会。黎明会は最も強烈だ。

藤巻 お頭入りの緑のカレー。どうやって作ったのか？

石井 清陵祭で青い山脈のライニングのため、先輩から、上諏訪駅前の丸光でブラジャードとかパンティーを50組み以上、買ってこいと命令されて、赤面しながら買った。それは清陵祭の最終日、ファイヤーストームの飾りになった。試胆会では、好きな女の子の名前を吐け、と暗闇の中怒鳴られる。おずおずと言つ、「あんなブスが好きなのか！」と恫喝じみたことを言われ、本音を言つてしまふ。すると、「さつきの発言はウソか！ 失礼じゃないか。その子に」とまた怒鳴られる。その暗闇にはその子の兄がいたりして……。

★石井和夫さん(1973年卒76回生、庭球部、黎明会会长、戸田建設群馬営業所長)  
★藤巻和広さん(1975年卒78回生、庭球部、日本医師会・地域医療第一課)  
★高木良朗さん(1982年卒85回生、古典研究会、タカラトミー)  
★藤森寛行さん(1980年卒83回生、児童館非常勤職員)  
♥20歳代黎明会会員のピンチヒッターとして……  
★味澤由妃さん(2006年卒108回生、岡谷南中、早大国際教養学部)  
★中村沙知子さん(2005年卒108回生、宮川中学、女子バスケットボール部、富士通)

藤森 僕の年代のとき、試胆会が父兄から抗議を受けて、一時、問題になつた。(80年代を前に) そういうものに、ブレーキがかかつてきましたのではないか。その地方以外の清陵外人部隊の暴言が凄いとか、イジメではないか、とか。言葉のやりとりに社会全体が神経質になってきた。同時に『酒やタバコはダメだ』と指導も周囲から受け、黎明会から喫煙も飲酒も消えた。

高木 しかし、面白い先生もいて、国語の新任教師の引越しを手伝つたら、感謝のしるしつばかり、夜、酒を飲ませてくれた。ああいう先生がいるところが清陵だったと思う。

石井 オレの担任は生物のM先生。あるとき『石井、お前、タバコは何を吸つていてるんだ?』と聞かれた。『セブンスターです』と答えた。『そうか。六部のSさんは受け持ちの生徒のタバコの種類全部、知っている。みんな隠さずに話すそうだ』と言つて、とつても淋しそうな顔になつた。

中村 私は、ファイヤーストームの係をやつた。霧ヶ峰にある学有林から、モミの木を切り出して、生徒一〇〇人で曳いた。そして、校庭で立て御柱をやつた。当日は、消防車まで繰り出して、泥だらけになつた。

調べたのでしようけれど、自宅に黎明会だと名乗り訪問してきて、僕を閉んで、『金色の民 いざや、いざ』つてやるわけですよ。強烈な印象でした。その後に『試胆会』が控えていたわけですね。

司会 新聞に出身中学入りで合格者名簿とは、今なら個人情報なんてことに。大らかな時代だったわけですね。

藤巻 信州人らしいロジックを大事にするというか。。。試胆会は、今思えば、そういうバカを言ひなが

ら、ロジックを鍛える場だったのですよ。本質的に。

藤森 石井先輩の担任の生物の先生は医学生用の海外ルボで人の受精から赤ん坊が誕生までの記録を見せてやるわけですよ。強烈な印象でした。カルチャーショックだった。けれど、僕にはその後の人生で、命と向き合いつかけになつた。

藤巻 僕らの世代に、初めて研修(修学)旅行が始まった。研修旅行の帰路の列車内は、タバコの煙が立ち込め、ビールを飲んでいる者もいて、車掌さんも呆れていた。でも今、みんな清陵の教師の手の平に乗つてのことだつたことかも知れない。丸光のブラジャード大量購入も、店員たちは十分事情を知つていたはずで、清陵が地域に愛されていたんだね。

石井 そうした愛情とかやさしさに甘えてはいけないという意識はいつもありました。校則がないから考えたようには、やさしくされるから律しないといけないというようなことを、いつも考えていたよう気がする。結局、試胆会こそ自治の基本精神だつたのではないか。

藤森 試胆会の闇の中で自反而縮雖千萬人とともに、『燕雀安知鴻鵠之志哉(えんじやく・いづくんぞ・こうちく・の・こころざし・を・しらんや)』と叫ぶ先輩がいた。

中村 私は、ファイヤーストームの係をやつた。霧ヶ峰にある学有林から、モミの木を切り出して、生徒一〇〇人で曳いた。そして、校庭で立て御柱をやつた。当日は、消防車まで繰り出して、泥だらけになつた。

## 下諏訪黎明会



出席者

左から、

★石井和夫さん(1973年卒76回生、庭球部、黎明会会长、戸田建設群馬営業所長)

★藤巻和広さん(1975年卒78回生、庭球部、日本医師会・地域医療第一課)

★高木良朗さん(1982年卒85回生、古典研究会、タカラトミー)

★藤森寛行さん(1980年卒83回生、児童館非常勤職員)

♥20歳代黎明会会員のピンチヒッターとして……

★味澤由妃さん(2006年卒108回生、岡谷南中、早大国際教養学部)

★中村沙知子さん(2005年卒108回生、宮川中学、女子バスケットボール部、富士通)

感じた。

。



出席者

左前から、

- ★羽毛田弘志さん(1976年卒76回生、剣道部、朝日新聞社・東京編集局文化グループ記者)  
 ★佐藤一彦さん(1973年卒76回生、剣道部、主婦の友社・執行役員 編集部部長)  
 ★上田克郎さん(1981年卒84回生、サッカー部、フリーカメラマン)  
 ★芝田聰子さん(2002年卒105回生、天文観測部、東京スター銀行)  
 ★清水信次さん(1981年卒84回生、山岳部、スタジオパラム代表)

なにもかも、ゴシタイ(疲れる)ことばかり。でも営業と続いてきた。あのエネルギー、清陵って全員が一丸で青春するわけですよ。「民」って、単純に青春ってことかな。どこにいっても、何年たつても民の精神があるぞって」

なにもかも、ゴシタイ(疲れる)ことばかり。でも営業と続いてきた。

味澤

民という行為は、挑戦、チャレンジ精神の発露ではないか。しか

も肩を組みながら、互いを想う、励ます。中村さんや私が在学中にあと一步まで迫った甲子園(野球大会)で清陵生の「民」を見ることができたら、どんなに素晴らしいだろう。

いやな奴だと、上中出身者は思われていたのかなと、今でも思つ。

上田 確かにそういうところは「上諏訪」にはあると思う。そもそも大

量に清陵に来るということは、中学で清陵生の「民」を見ることができ

か言つてしまつた。そんなんだから、

清陵特有の「バンカラ」風土にはそれが言つてしまつた。だから、

ボーダーが低いというか、「結果は

とてもかく、受けて来いよ」という雰

囲気が強いわけです。

佐藤 入れてよかつた、みたいなのがんびりしている感じはあつたね。上諏訪中出身者には。

清水 成績はよくなかつたけど、僕らの頃は上諏訪が(あの盆地の)文化の中心地だつたから、音楽とかファッショニ、トレンドも、最先端だという思いもありました。

芝田 確かに、私の世代でも上諏訪学生団はファッショニ性は高かつたかも。みんな洋服の着方が、ちょっとまかつた。中学のときから、制服なんてなかつたから。

司会 茅野や下諏訪にも映画館はあつたけれど、洋画のシネマレイクや邦画の花松館という封切館があつた。

清水 僕は「キング」というジーンズショップで買い物するのがすごく自慢でしたね。

上田 「高島パークレーン」とかい

うボーリング場も上諏訪だけだ、な

んて胸を張つていた。

清水 そもそも百貨店があるのは、

上諏訪だけでした。

佐藤 中学の修学旅行で奈良に泊

まつたとき、猿沢の池のほとりで反戦フォーラークをやつてる大学生を見た。「おれたちのほうがうまい」と

だから、大地で育まれてきたパワーみたいなものは、絶対、欠けていたのかも知れません。

上田 明るそうにしていて、どこかに寂しさを引きずつっていたのが上諏訪学生団かもしれない。

清水 清陵高校は自由な校風で、原

村出身の親父も放任主義、まさに自

由奔放に過ごした時間でしたが、パ

ワードのある新しい感覚が東京への憧

憬や未来への創造を与えてくれまし

た。

佐藤 僕の父親は転勤族で、諏訪に実家つてものがないから、時々、帰つてくると諏訪も変わつてしまつて驚く。でも、思い出は変わらないから、清陵は僕の座標軸みたいなもんで、自分の立ち位置が確認できる。だから帰つてくるといつも、反省ばかりしている。

司会 変遷のなかで清陵を、その

仲間たちを想い続けるということが

大切なわけですね。それこそが何年

たつても、生きる勇気を与えてくれ

る。

芝田 私たちは中学のときから「金色の民」をメロディーをつけて応援歌として歌つていましたよね。上中は旧制・諏訪中学の流れをくんでいました歴史を感じてました。

上田 上中は清陵の伝統を一番引き

継いでいると思つていた。

(司会・構成/羽毛田弘志)

## 速報！現役清陵生の活躍

2009年9月16日(水)(14)

笠原萌花さん(3年)、  
百人一首全国大会で優勝！

かるた部

第31回全国高等学校小倉百人一首  
かるた選手権大会(09・7・20)D

2級 優勝 笠原萌花(3年)

〔古典ギター部〕

第39回全国高校ギター・マンドリン  
ンフェスティバル(09・7・19)

優秀賞 曲目「ギター協奏曲ニ長調  
より 第1、2、3樂章」

野球部

春季長野大会(09・5・18~20)  
準々決勝 諏訪清陵2-0長野商

準決勝 諏訪清陵4-6佐久長生  
3位決定戦 諏訪清陵11-1松商学  
園

・選手権長野大会(09・7・14~18)  
2回戦 諏訪清陵10-8松本県ヶ丘  
3回戦 諏訪清陵5-6丸子修学館  
〔端艇部〕

滋賀県琵琶湖インターハイ(09・8・  
1~4) M4X+ 5位入賞

〔陸上部〕  
・南信陸上選手権兼三郡対抗陸上  
(09・5・16~17)  
男子 4×100mリレー 優勝(古  
川雄大2年、三輪峻大2年、大槻駿  
輔が三、六メートルと三、九メートル、  
継九十七センチの特注版だ。)

第一が八番、第二が十番。額は横  
幅が三、六メートルと三、九メートル、  
継九十七センチの特注版だ。  
その日、墨跡も鮮やかな巨大額が  
取りつけられた昇降口での寄贈式に  
は、三十数人の同期生、揮毫を引き  
受けてくれた元清陵書道教師の小宮

介1年、小口研一郎2年) 400m  
3位 小口研一郎2年 110mH  
3位 古川雄大2年  
女子 400m 優勝 野口彩夏2  
年 棒高跳び 2位 田中美裕3年

## O B 通信

校歌の巨大額を母校に寄贈  
卒後40年の記念に

(73回生・山田雄二)

清陵入学を控えた春休み。いきなり  
呼び出された地方会(岡谷南陵会)

歓迎コンバでの歌唱指導が、ことの  
始まりだった。それ以来、あの校歌

を、いつたいどれほど歌ってきたか。

そして、この夏、類まれと言つてい  
い痛快な熱唱が実現した。

われわれ七十三回生の清陵卒業は  
一九七〇年三月。数えて四十年目、  
その名も「73(なみ)の会」の集いを、

清陵祭の一般公開初日の七月四日に  
諏訪市のRAKOKO華乃井ホテルで開  
き、約六十人が集結した。

十年前の「卒後三十年の集い」で  
は、ハナミズキを母校へ贈った。今

回、どうするか。衆議の結果、「校歌  
の歌詞が校内に無い。ぜひ、欲しい」

となり、記念に毛筆書きの額を贈る  
ことにした。

第一が八番、第二が十番。額は横  
幅が三、六メートルと三、九メートル、  
継九十七センチの特注版だ。

その日、墨跡も鮮やかな巨大額が  
取りつけられた昇降口での寄贈式に  
は、三十数人の同期生、揮毫を引き

受けてくれた元清陵書道教師の小宮

山雪陽さん、そして篠原秀郷校長、  
北原智啓学友会会長らが詰め掛けた。  
「AIN、ツバイ、ドライ」。ひたすら声を張り上げれば、たちまち気  
分は清陵生だ。

母校のそれは「日本一長い校歌」  
とされる。かつて、民放のテレビ番  
組で紹介され、評判になつた。今、  
インターネットの百科事典、ウイキ  
ペディアでも同じ認定だ。今回の寄  
贈を地元紙やテレビが大々的に取り  
上げたのも「長い校歌に大きな額」  
の話題性なればこそだろう。

「ひよつとして世界一じゃねえか」  
「この際、ギネスに申請だ」。懇親の  
席では、そんな話も飛び交つた。

ギネスブックといえど、手続きの  
煩雑さも名高い。立証の自信と勇気  
に富み、可能性の追求をめざす奇特  
なOB・OGがおられたら、申請の  
際には、ぜひ、母校を訪ねていただき  
たい。額の写真は、きっと必須の  
添付資料になることでしょう。

(1)都県別会員数  
東京都一八三六名、神奈川県七八九  
名、千葉県四七八名、埼玉県四五五  
名、茨城県八二名、群馬県三〇名、  
栃木県三〇名、その他一二三名

(2)年次別会員数(別表1)  
三、会費納入状況(二〇〇八・四)  
二〇一一・三会計期

(1)納入者総数  
(2)年次別会員数(別表1)  
三、会費納入状況(二〇〇八・四)  
二〇一一・三会計期

(3)年度別納入額及び人数(別表2)  
四、会費納入にご協力を

住所不明者が増えて、今後の会員  
把握が難しくなることが懸念されま  
す。賛助会費を含めて会費納入者は  
37%、会計期間3年の初年度という  
こともあります。半数以上が会費未  
納者となっています。東京清陵会  
は年会費によって運営されているこ  
とを理解され、会費納入をお願いし  
ます。また、賛助金制度にも引き続  
きご協力をお願いします。

※別表は15面に  
記載されています。

## 東京清陵会の現況

現勢をみると次のとおりである  
(二〇〇九・七・三現在)。

一、東京清陵会会員の定義  
(1)首都圏(東京、神奈川、埼玉、千葉、  
群馬、栃木、茨城)在住の同窓生(た  
だし、退会申出者を除く)。

(2)転居して首都圏を離れたが支部会  
費を納入している同窓生。

(1)首都圏(東京、神奈川、埼玉、千葉、  
群馬、栃木、茨城)在住の同窓生(た  
だし、退会申出者を除く)。

昨年10月21日に常陽CCで行われた第15回ゴ  
ルフコンペ。21名が参加、天候、コースコン  
ディションにも恵まれ、素晴らしい大会とな  
りました。優勝は大島則夫さん(75回)。



## 第16回ゴルフコンペのご案内

会員の交流・親睦を兼ねてゴルフコンペを下記の要項で開催します。  
同期生などお誘い合わせのうえ、奮ってご参加ください。

- 日時:10月20日(火) 9時15分集合
- 場所:常陽カントリー倶楽部(秋葉原駅から筑波エクスプレスで45分)
- プレーディング料:約14,000円 会費:5,000円
- 参加希望の方は、03-3518-2385 スタジオパラム=清水(84回)まで。  
FAXの場合は、住所・氏名・卒業回・連絡先を明記の上、  
お申し込みください(FAX:03-3518-2386)。
- 幹事=藤森宏一(63回)、大島則夫(75回)、小海健治(84回)

「東京清陵会」  
ゴルフ同好会



別表1 年次別会員数と会費納入結果 (2009年7月31日現在)

回	現員	不明	計	(費)
23	0	1	1	(-)
24	0	1	1	(-)
25	0	1	1	(-)
26	0	2	2	(-)
27	2	1	3	(-)
28	2	2	4	(-)
30	2	1	3	(1)
31	4	1	5	(-)
32	5	3	8	(-)
33	4	3	7	(-)
34	5	1	6	(-)
35	11	2	13	(-)
36	3	5	8	(-)
37	11	2	13	(1)
38	12	3	15	(2)
39	17	3	20	(3)
40	17	1	18	(3)
41	35	2	37	(7)
42	29	2	31	(7)
43	38	2	40	(7)
44	37	4	41	(7)

回	現員	不明	計	(費)
45	40	3	43	(12)
46	44	7	51	(7)
47	56	2	58	(12)
48	56	6	62	(18)
49	79	3	82	(31)
50	79	8	87	(30)
51	99	8	107	(49)
52	104	3	107	(57)
55	27	1	28	(13)
56	114	6	120	(67)
57	112	8	120	(74)
58	102	6	108	(65)
59	100	6	106	(61)
60	106	12	118	(72)
61	92	12	104	(62)
62	107	5	112	(52)
63	106	12	118	(67)
64	88	10	98	(55)
65	84	8	92	(45)
66	86	12	98	(38)
67	96	16	112	(42)

回	現員	不明	計	(費)
68	89	12	101	(48)
69	114	9	123	(54)
70	101	14	115	(37)
71	88	15	103	(31)
72	61	9	70	(24)
73	88	8	96	(27)
74	76	20	96	(29)
75	61	14	75	(16)
76	60	12	72	(18)
77	63	16	79	(24)
78	67	29	96	(13)
79	58	19	77	(19)
80	54	14	68	(9)
81	52	15	67	(8)
82	55	17	72	(7)
83	78	26	104	(22)
84	49	24	73	(9)
85	58	33	91	(13)
86	59	20	79	(9)
87	46	17	63	(2)
88	39	36	75	(7)

回	現員	不明	計	(費)
89	52	38	90	(6)
90	49	19	68	(3)
91	30	32	62	(1)
92	32	35	67	(2)
93	31	18	49	(1)
94	29	13	42	(1)
95	29	13	42	(2)
96	31	20	51	(2)
97	22	13	35	(0)
98	23	14	37	(0)
99	8	8	16	(0)
100	18	6	24	(0)
101	10	3	13	(0)
102	3	2	5	(0)
103	4	2	6	(0)
104	1	0	1	(0)
106	6	1	7	(1)
107	1	0	1	(0)
108	11	0	11	(0)
109	5	0	5	(0)
	3822	813	(1412)	

注1) 現員：東京清陵会に登録されている会員で、所在不明者を除く。

2) 不明：以前東京清陵会に所属していて現在所在不明のもの

3) ( )内は今会計期（2008.4～2011.3）会費完納者及び前納者の人数、  
75歳以上（2008時点で55回以前）の会費免除会員数904名  
(内終身会員209名)

4) 会費納入者数1,412名と今期納入者数の差は終身会費納入  
その他による

5) 終身会費納入者数1,230名  
(内113名死去、50名所在不明、退会他31名)

別表2 年度別会費等納入額および納入者数

前々期納入額総計 (1997.4～2002.3)	7,499,200円	; 1,371名
前々期納入額総計 (2002.4～2005.3)	1,667,400円	; 541名
前期納入額総計 (2005.4～2008.3)	6,436,785円	; 1,167名
内訳	2005年4月～ 小計 3,199,000円 (862名)	
	2006年4月～ 小計 1,642,785円 (437名)	
	2007年4月～ 小計 1,595,000円 (395名)	
今期納入額総計 (2008.4～2011.3)	1,969,000円	; 456名
内訳	2008年4月～ 小計 1,969,000円 (456名)	

注) 前期及び今期納入額には、賛助金も会費として処理されている。

別表3 会員数と次期繰越し金の推移

年	会員数 (名)	不明者数 (名)	次期繰越し 金(円)
1996	4,179	267	15,962,791
1997	4,068	329	15,008,425
1998	3,944	437	16,330,130
1999	3,797	546	15,191,116
2000	3,832	485	13,660,668
2001	3,628	649	11,499,913
2002	3,768	672	10,266,836
2003	3,630	767	8,951,881
2004	3,528	794	7,281,132
2005	3,410	894	6,192,586
2006	3,300	928	8,217,342
2007	4,000	698	8,385,652
2008	3,849	818	8,627,401
2009	3,822	813	9,108,456

注1) 次期繰越し金は各年の3月現在

2) 会員数、不明者数は各年の7月現在 (2004年は5月現在)

収支計算書(案) 自2008年4月1日～2009年3月31日 (単位:円)

## 収入の部

科目	予算額	決算額	差異 (予算の方が)
1 会費	3,000,000	3,388,000	△ 388,000
(1) 会員年会費 (206名)	400,000	585,000	△ 185,000
(2) 総会会費 (173 + 22名)	1,600,000	1,428,000	172,000
(3) 賛助金会費 (306名)	1,000,000	1,375,000	△ 375,000
2 諸収入	120,000	131,298	△ 11,298
(1) 寄付金	50,000	50,000	0
(2) 預金利子	11,000	12,298	△ 1,298
(3) 会議費負担金	59,000	63,000	△ 4,000
(4) 雜収入	6,000	6,000	0
当期収入合計 (A)	3,120,000	3,519,298	△ 399,298
次期繰越	8,627,401	8,627,401	0
収入合計	11,747,401	12,146,699	△ 399,298

## 支出の部

科目	予算額	決算額	差異
1 経費	1,200,000	1,210,973	△ 10,973
(1) 総会費用	180,000	174,150	5,850
(2) 会議費	37,000	43,500	△ 60,500
(3) 諸会費	780,000	760,824	19,176
(4) 印刷・通信費	23,000	23,386	△ 386
(5) 事務雑費	830,000	825,410	4,590
(6) 会報費	50,000	0	50,000
2 予備費	50,000	0	50,000
当期支出合計 (C)	3,100,000	3,038,243	61,757
当期収支差額 (A) - (C)	20,000	481,055	461,055
次期繰越 (B) - (C)	8,647,401	9,108,456	461,055

寄付金：本部 40,000 校舎：10,000 雜収入：人名録 3,000 ビデオ代 3,000

2009年度収支予算(案) 自2009年4月1日～至2010年3月31日 (単位:円)

## 支出の部

科目	金額
総会費用	1,090,000
会議費	170,000
諸会費	43,000
印刷・通信費	760,000
事務雑費	23,000
会報費	830,000
予備費	50,000
小計	2,966,000
次期繰越	8,943,456
合計	11,909,456

(注) 2009年度予算収支差額は165,000円の不足となります。

# 一〇〇八年度 東京清陵会会務報告

計 報			
謹んで哀悼の意を表し、 ご冥福をお祈り申し上げます。(敬称略)			
氏名	年次	逝去年月日	
原中犬濱小口佐藤木川後藤野澤吉石小宮山小口宮坂柳崎山田中山岡矢崎遠藤小川両角名取伊藤百瀬両河西中村古村中進小山有賀	一三郎亘勝喜久二正彰達爾直人男久利勇誠陽逸郎武康好順幸村聖一聖一実穂純知正俊美辰洋三角千平文左一勝恒朗英行	(28回)(30回)(33回)(34回)(36回)(36回)(37回)(38回)(38回)(39回)(40回)(41回)(41回)(41回)(42回)(43回)(45回)(48回)(48回)(49回)(49回)(49回)(49回)(50回)(51回)(52回)(57回)(57回)(59回)(60回)(62回)(65回)(93回)	2009.1.12 2007.11.3 2008.5.18 2008.7.31 2008.1.28 2008.1.6 2008.1.22 2008.10.5 2008.5.21 2008.2.9 2008.3.11 2008.6.14 2008.8.27 2008.11.28 2008.6.14 2008.3.21 2009.1.10 2007.1.4 2008.1.11 2008.5.16 2007.7.13 2008.9.10 2008.12.7 2008.6.28 2008.7.27 2009.5.26 2009.1.3 2009.4.3 2007.9.4 2009.1.14 2007.10.12 2008.10.23 2008.10.18

●事務局に連絡が入った方

- 4・5 (土) 南信同窓連理事会 (新宿・中村屋レガル) 小川
- 4・12 (土) 南信同窓連第37回ゴルフ会 (香取カントリークラブ)
- 4・17 (木) 本部 物故会員ならびに道志社先輩慰靈法要 (地蔵寺) 林
- 4・19 (土) 第1回事務局会議 (神田シティホテル)
- 4・26 (土) 75回生 編集会議5名 (神田シティホテル)
- 5・17 (土) 南信同窓連総会 (虎ノ門パストラル) 小川、藤森、清水、上條
- 5・22 (木) 東京同窓連理事会 (日本教育会館) 小川
- 5・31 (土) (財) 諏訪清陵会理事会・評議員会 同窓会本部常任幹事会・幹事会 (清陵高校、清陵会館) 小川、林、小川、
- 6・28 (土) 75回生 編集会議6名 (神田シティホテル)
- 7・5 (土) 75回生 編集会議6名 (神田シティホテル)
- 7・26 (土) 75回生 編集会議6名 (神田シティホテル)
- 7・28 (月) 二〇〇八年度常任幹事会 (南青山会館) 23名出席
- 8・28 (木) 二〇〇八年度幹事会 (南青山会館) 42名出席
- 11・12 (水) 南信同窓連第38回ゴルフ会 (香取カントリークラブ)
- 11・15 (土) 第2回事務局会議 (神田シティホテル)
- 11・29 (水) 本部常任幹事会・幹事会 (清陵会館) 小川、生越
- 12・5 (金) 南信同窓連忘年会 (新宿・中村屋レガル) 林、上條、小生越
- 12・6 (土) 東京同窓連新年会 (春山)
- 6・28 (土) 本部定期総会 (ホテル紅葉) 林、小川ほか東京清陵会から多数出席
- 7・5 (土) 東京同窓連総会 (アルカディア市ヶ谷) 小川、藤森
- 10・21 (火) 東京清陵会第15回ゴルフコンペ (常陽カントリー俱楽部)
- 10・26 (土) 二〇〇八年度常任幹事会 (母畑温泉) 林、第22回親睦旅行会 (母畑温泉) 林、小川、清水
- 11・12 (水) 南信同窓連第39回ゴルフ会 (香取カントリークラブ)
- 11・15 (土) 第2回事務局会議 (神田シティホテル)
- 11・29 (水) 本部常任幹事会・幹事会 (清陵会館) 小川、生越
- 12・5 (金) 南信同窓連忘年会 (新宿・中村屋レガル) 林、上條、小生越

## 一〇〇九年度事業計画 (案)

一、 第43回定期総会の開催 10月16日

(金) アルカディア市ヶ谷

総会 (17:00~17:50 飛鳥の間)

懇親会 (18:00~21:00 富士の間)

当番幹事 76回生

二、「東京清陵会だより」第20号の発行

三、 東京清陵会ゴルフコンペの開催 10月20日 (火)

四、 常任幹事会、幹事会、事務局会議の開催

五、 清陵高校同窓会本部事業会および幹事会、常任幹事会への出席、その他の出席、その他

\* (財) 諏訪清陵会 理事会お

会および幹事会、物故者慰靈法

要への出席、その他

会および評議員会への出席

六、 郷里同窓会関係団体への参加

名 (神田シティホテル)

川、藤森

12・11 (木) 東京同窓連理事会 (日本教育会館) 小川、藤森

9・17 (水) 会報「東京清陵会だより」19号発行 発送3879通

9・26 (金) 75回生 総会・準備会議10名 (アルカディア市ヶ谷)

10・6 (月) 75回生 総会・準備会議12名 (アルカディア市ヶ谷)

10・17 (金) 第42回定期総会・懇親会 (アルカディア市ヶ谷)

11・17 (土) 東京同窓連新年会 (アルカディア市ヶ谷)

2・7 (土) 東京同窓連新年会 (アルカディア市ヶ谷)

2・14 (土) (財) 諏訪清陵会理事

会・評議員会、同窓会本部常任幹事会・幹事会 (清陵高校、清陵会館) 小川、生越、藤森

3・6 (金) 南信同窓連第23回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

3・13 (金) 南信同窓連第24回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

3・14 (金) 南信同窓連第25回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

3・15 (金) 南信同窓連第26回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

3・16 (金) 南信同窓連第27回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

3・17 (金) 南信同窓連第28回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

3・18 (金) 南信同窓連第29回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

3・19 (金) 南信同窓連第30回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

3・20 (金) 南信同窓連第31回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

3・21 (金) 南信同窓連第32回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

3・22 (金) 南信同窓連第33回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

3・23 (金) 南信同窓連第34回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

3・24 (金) 南信同窓連第35回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

3・25 (金) 南信同窓連第36回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

3・26 (金) 南信同窓連第37回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

3・27 (金) 南信同窓連第38回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

3・28 (金) 南信同窓連第39回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

3・29 (金) 南信同窓連第40回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

3・30 (金) 南信同窓連第41回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

3・31 (金) 南信同窓連第42回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

4・1 (金) 南信同窓連第43回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

4・2 (金) 南信同窓連第44回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

4・3 (金) 南信同窓連第45回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

4・4 (金) 南信同窓連第46回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

4・5 (金) 南信同窓連第47回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

4・6 (金) 南信同窓連第48回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

4・7 (金) 南信同窓連第49回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

4・8 (金) 南信同窓連第50回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

4・9 (金) 南信同窓連第51回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

4・10 (金) 南信同窓連第52回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

4・11 (金) 南信同窓連第53回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

4・12 (金) 南信同窓連第54回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

4・13 (金) 南信同窓連第55回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

4・14 (金) 南信同窓連第56回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

4・15 (金) 南信同窓連第57回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

4・16 (金) 南信同窓連第58回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

4・17 (金) 南信同窓連第59回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

4・18 (金) 南信同窓連第60回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

4・19 (金) 南信同窓連第61回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

4・20 (金) 南信同窓連第62回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

4・21 (金) 南信同窓連第63回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

4・22 (金) 南信同窓連第64回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

4・23 (金) 南信同窓連第65回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

4・24 (金) 南信同窓連第66回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

4・25 (金) 南信同窓連第67回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

4・26 (金) 南信同窓連第68回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

4・27 (金) 南信同窓連第69回親睦旅行会幹事会 (幹事校Ⅱ辰野・諏訪清陵) 小川

\*長野県高等学校同窓会東京連合会 (東京同窓連) への協力

会東京連合会 (南信同窓連) への協力 (親睦旅行、ゴルフ会、その他)

七、 その他

八、 郷里同窓会関係団体への参加

### 編集後記

●1年前、幹事と二人、会報製作を聞いて立ちすくんだのがウソのよう、ありがとうございました。(宮原秀行)

●自身を振り返る時間を与えていただき、ありがとうございました。(田中修)

●東に高き八ヶ岳で始まるわが清陵校の今年、懐かしい旧友たちとの再会は思いで多き高校時代に瞬く間にフルバックしてくれる。東に高きを甲子園の空で聞くことが積年の夢。わが清陵に榮光あれ。

●人は五十路に入る頃、回帰を始めるようです。清陵はみごとにその回帰の場であります。(小池一平)

●できあがめた会報を読み、まさに「男の本懐これに勝るものなし」です。仲間たちに心から感謝。(井上孝太郎)

●黎明会の座談会では、急な設定にも拘わらず、収集して頂いた良き後輩たちに感謝! そんな後輩のいる母校に感謝!

●今夏30数年ぶりに母校を訪問。恋歌あり、雑歌あり、挽歌あり。清陵、そればかりでなく、清陵の「求心力」はどこにこえの青春万葉集。(羽毛田弘志)

●悔いかな31年間培ってきた自身の「編集力」ではなく、清陵の「求心力」が作らせた一冊! 楽しい半年でした。

僕らの自慢の清陵に、乾杯!(佐藤一彦)